2023 年 10 月 21・25 日　教育懇談会　校長挨拶

保護者の皆さま、本日は教育懇談会にご出席いただき有難うございました。
１４日土曜日に実施されました音学発表会の折には、遠くまで足をお運びくださいましたこと重ねて感謝申し上げます。
今年は、音楽科日野先生がお産でお休みになられたので、４月から吉野先生に勤務いただき、産休に入る７月まで、藤木先生と３人で音楽の指導に当たってもらいました。
また、担任や学年主任の先生方も協力して指導くださいました。
お陰様で、毎年会場が変るというイレギュラーな状態にもかかわらず、子どもたちは大変立派な態度で練習の成果を発表会本番にぶつけてくれました。結果は大成功であったと手前味噌ではありますが、感じております。
本番当日まで、インフルエンザの蔓延等で子どもたちにも不自由や、不安な状況もありましたが、ご家庭のご協力もいただき乗り切ることが出来ました。本当に有難うございました。

さて、今年は新型コロナが５類に分類されたことから、通常の教育活動を行って参りました。宿泊行事等では子どもたちの成長に大きな成果があったと感じています。特に集団行動の面にそれを感じており、集会などの態度にもそれがあらわれています。
また、学習への集中力もここへきて高まっているように感じています」。

そうした行事の中で、希望者によるオーストラリア国際交流プログラムと長崎イングリッシュキャンプもございました。このような遠隔地でのプログラムも行えるようになったことは本当に喜ばしいことと受け取っています。１点残念なことが起こりましたのが長崎イングリッシュキャンプのホームステイでした。一軒のホストファミリーに、本校とは別の学校の高校生が同時にステイするという、普通では考えられないことが発生しました。
現地のエージェントでは、このホストファミリーを即時に契約解除としたほどです。ご迷惑をお掛けした児童には大変申し訳なかったと思っています。
今後は２度とこのようなことが起こらないように、現地エージェントには契約内容の見直しをしていただきました。
来年度につきましては、プログラム全体の見直しも視野に入れ検討してまいります。

今年度からの新たな取り組みとして導入しました食育プログラム「福田メソッド」ですが、東急ホテルズの総料理長の福田シェフが、子どもたちとの楽しい食育授業を行ってくださっております。フランス仕込みのオシャレな雰囲気と博識、子どもたちに向ける優しい笑顔など、とても素晴らしい時間を提供いただいております。4年生の保護者の皆さんにも授業に参加していただきました。今月９日には、渋谷セ

ルリアンタワーホテルでのお食事とマナー、ホテルのバックヤード見学などの特別プログラムも実施されました。参加された皆さん、ありがとうございました。

もう一つの新たなプログラムである「TCU サイエンスクラブ」ですが、３月に続き７月には、都市大世田谷キャンパスで、理工学部応用化学科江場教授による「水素を作って電気に変えてみよう！」という実験が行われました。夏休み中という事もあり保護者の皆さんのご協力も有難うございました。
次の実験は「映像が空中に見える装置を作ってみよう」とテーマで、現在企画を進めてもらっているところです。いずれにしましても素晴らしい施設で楽しい実験ができるようになったことは素晴らしい事だと感じています。

さて、ここまで本校の今年度の取り組みについてお話してきましたが、本校が掲げる「高い学力と豊かな心」の育成のためには、多くの経験とチャンスを子どもたちに提供する事がとても重要であると考え進めてきています。
これは現在、社会全般で求められている「多様性」にも通ずるとところと感じています。今いろんなところで「ダイバーシティ」という言葉が使われていますが、学校にとっても、ダイバーシティ教育の必要性が問われるようになって参りました。

では、ダイバーシティ教育とは何でしょうか。これは、子どもの多様性を尊重する教育の事を指し、グローバル化や価値観の多様化により、様々な個性を持つ児童が、将来にわたって社会で活躍できる人材となることを目標としているものです。

文部科学省では、ダイバーシティ教育とは、人種、性別、文化、国籍、宗教などの違いを受け入れ、お互いに認め合うための配慮や考え方、行動を促す教育を謳っており、具体的には、

１、子どもの多様性に配慮した教育を行うこと
２、子どもたちに多様性に関する気付きを与えること
３，集団の中でお互いを尊重し合う態度や行動を育むこと
この３点を社会で生きていくうえでも大切な要素であるとしています。

また、現代の日本の子どもたちの課題として、
１，根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることが苦手である

２，国際的にみて自己肯定感や主体性に欠けている
３，社会参画の意識などが相対的に低い
などのことがあげられています。

このようなことから、本校でも多様性に対する意識改革や価値観の醸成とともに、課題となっている論理的思考力とアウトプット力、成功体験の積み重ねから得られる自己肯定感、他者理解から発する社会への共生などを身に付けた人材の育成に取り組んでいるところなのです。

私どもの学校は私立学校ですから、入学試験を突破した、ある一定層の学力を有した子どもたちと、それを支えてくださる保護者と温かな家庭に守られたとても恵まれた環境に置かれています。
本来のダイバーシティとは、生まれ育った環境や、持っている特徴や価値観、考え方が違う様々な属性の人が集まっていることを意味するものです。
そういったことから考えると、異なる環境や他者理解を伝えていく事がややもすると難しい事であったりすることもあるのです。

このようなことから、出来るだけ沢山の人たちとの触れ合いや経験を求め、校内だけではなく校外へ出ての体験プログラムや社会科見学、宿泊行事などを通じ他者との共生力を高めたり、漢字書き取り大会や計算力大会、競書会での頑張り、そして様々な行事を成功させた時の達成感を積み重ねながら、児童一人ひとりの自己肯定感を高めることに繋げているのです。

こうして６年間の活動で培った沢山の成功体験から、将来にわたって、周囲への思いやりや、異なる意見を持つ人に耳を傾ける力、弱い立場の人に手を指し延べることのできる人、そして、論理的思考力の基づく発言や行動のできる人になってもらいたいと願っています。

今日は、今年度の取り組み状況から、多様性の話をさせていただきましたが、これから進んでいく日本の社会は、少子高齢化がさらに進行することが懸念されています。また、グローバル化や情報化が進展する社会では、先を見通すことがますます難しくなっていくでしょう。
また、技術革新によりシンギュラリティの到来により、既に一部では始まっていますが、人に変わりAIが仕事を行うようになると、子どもたちが将来就く職業の在り方も大きく変化することが予想されます。

これからの子どもたちは、加速度的に変化する社会のなかで、多様性を身に付け、自ら判断し、自ら問題解決すること、そして周りと協働しながら新たな価値を生み出すことが必要となってきます。

子どもたちには、小学校だけでなく、中学校、高等学校や大学に進んでも多様性を身に付ける学びや取り組みを続けていって欲しいと思っています。
私たちはその手助けとして、大きな希望を持ってこれからも子どもたちの指導に当たっていきたいと考えています。
保護者の皆さまもどうぞよろしくお願いいたします。
本日は有難うございました。